

高め合う学級づくりをめざして  
～みんなが安心して過ごせるための「しんゆうづくり」を通して～

1. 主題設定の理由

本学級は、男子12人、女子15人、計27人の5年生の学級である(2016年4月)。活発で目立つグループとおとなしいグループという2グループに学級が分かれていった。比較的目立つグループにいる子どもの発言ばかりが目立つようになり、徐々に気の弱い子どもやおとなしい子どもの発言がなくなっていった。また、目立つグループの中では、発表の途中で発言をしてしまったり、話を聞いていなかったりと、自分勝手に話す子どもも多く見られた。さらに、学級のために行動するという点にも消極的であることがわかった。学級の課題は次のようになる。

- 特定の子どもとしか、人間関係がつかれない。
- 友だちの発言を聞くことができず、自己主張ばかりしてしまう。
- 自分の役割以外には関心がもてず、人任せになってしまう。など

このような状態が続くと、いずれ不登校やいじめといったことに発展しかねないと感じ、本学級の緊急の課題として、何らかの手立てを講じなければならないと考えた。一人ひとりが「安心感」のある学級で生活できれば、学級の仲が深まり、友だちや学級のために進んで発言や行動ができるようになるのではないかと考えた。

喜びや悩みを共有し、共に成長できる「真の友だちが集まる学級」を構築することができれば、安心感のある学級になり、お互いが高めあえる学級になると考え、本主題を設定した。

2. 研究内容

「安心感」があり、高め合える学級をめざすために

- ① 学級づくりの基盤となる「ルールの徹底」
- ② 「まずは、受容」～お互いのことをもっと知る 「新友づくり」
- ③ 「認め合い」～仲間のことを認め合う 「親友づくり」
- ④ 「高め合い」～何でも言い合えるお互いが尊重できる 「真友づくり」

これら4つの手立てを「しんゆうづくり」という言葉をキーワードにし、「ルールづくりのための色紙」、「グループ日記」、「サンキューカード」、「意見カード」、「学級通信」を使って手立てを講じる。

3. 結論

- 安心感のある学級をつくるために、段階を踏んで「しんゆうづくり」を行ったことにより、子どもたちの中には、高め合いができる姿が見られた。
- グループ日記やサンキューカードを通じて、子どもたちの交友関係が広がったことで、みんなのために行動できる子が増えてきた。また、おとなしい子も積極的に活動する姿が見られた。
- サンキューカードや意見カードを使ったことで、安心して自分の意見が言えるようになったり、意見を自分の行動に取り入れたりする姿が見られた。

高め合う学級づくりをめざして  
～みんなが**安心**して過ごせるための「しんゆうづくり」を通して～

1 主題設定の理由

本学級は、男子12人、女子15人、計27人の5年生の学級である(2016年4月)。4年生までに大きなトラブルはなく、4月の第一印象は「幼い」という印象であった。担任に様々な質問をしたり、自分の話をしたりと、とても人懐っこく学級の雰囲気は良いものであった。

しかし、時間の経過と共に子どもどうしの関係が、特定の子どもどうしのみ関係になり、活発で目立つグループとおとなしいグループという2グループに学級が分かれていった。そのため、学級活動などの話し合いの時間では、比較的目立つグループにいる子の発言ばかりが目立つようになり、徐々に気の弱い子どもやおとなしい子どもの発言がなくなっていった。また、目立つグループの中では、発表の途中で発言をしてしまったり、話を聞いていなかったりと、自分勝手に話す子どもも多く見られた。さらに、一生懸命頑張るが「ゴミ箱の中がいっぱいでも捨てない。登校しても電気をつけない。落ちているごみを拾わない。」と、学級のために行動するという点にも消極的であることがわかった。子どもは学級に「いる」ということに対し、不安感を抱いているように見えた。

学級の課題は次のようになる。

- 特定の子どもとしか、人間関係がつかれない。
- 友だちの発言を聞くことができず、自己主張ばかりしてしまう。
- 自分の役割以外には関心がもてず、人任せになってしまう。など

このような状態が続くと、いずれ不登校やいじめといったことに発展しかねないと感じ、本学級の緊急の課題として、何らかの手立てを講じなければならないと考えた。

学級づくりを進めるにあたって大切なことは、子どもたち、一人ひとりが学級集団の中で「安心感」をもって生活をする点であると考えた。

諸富(2011)は安心感のある学級づくりについて、「基本的なルールを守らせ、学級に秩序を与えることで、弱い立場の子どもでも安心して話ができる状況をつくる。」「お互いがお互いを認めあえるポジティブであたたかい関係を構築していく。」を、学級づくりの原則として述べている。この2つは、学級という限られた集団の中で、多様な個性をもつ子どもたちが安心して過ごすためになくてはならないことといえる。また私は、「安心感」とは、「学級の中に居場所があり、何でも言い合える」ということと考えた。一人ひとりが「安心感」のある学級で生活できれば、学級の仲が深まり、友だちや学級のために進んで発言や行動ができるようになるのではないかと考えた。そこで、安心感のある学級づくりを、年間を通じて講じていくために、以下の4つの手立てにわけ、学級経営の柱として順に講じていく。

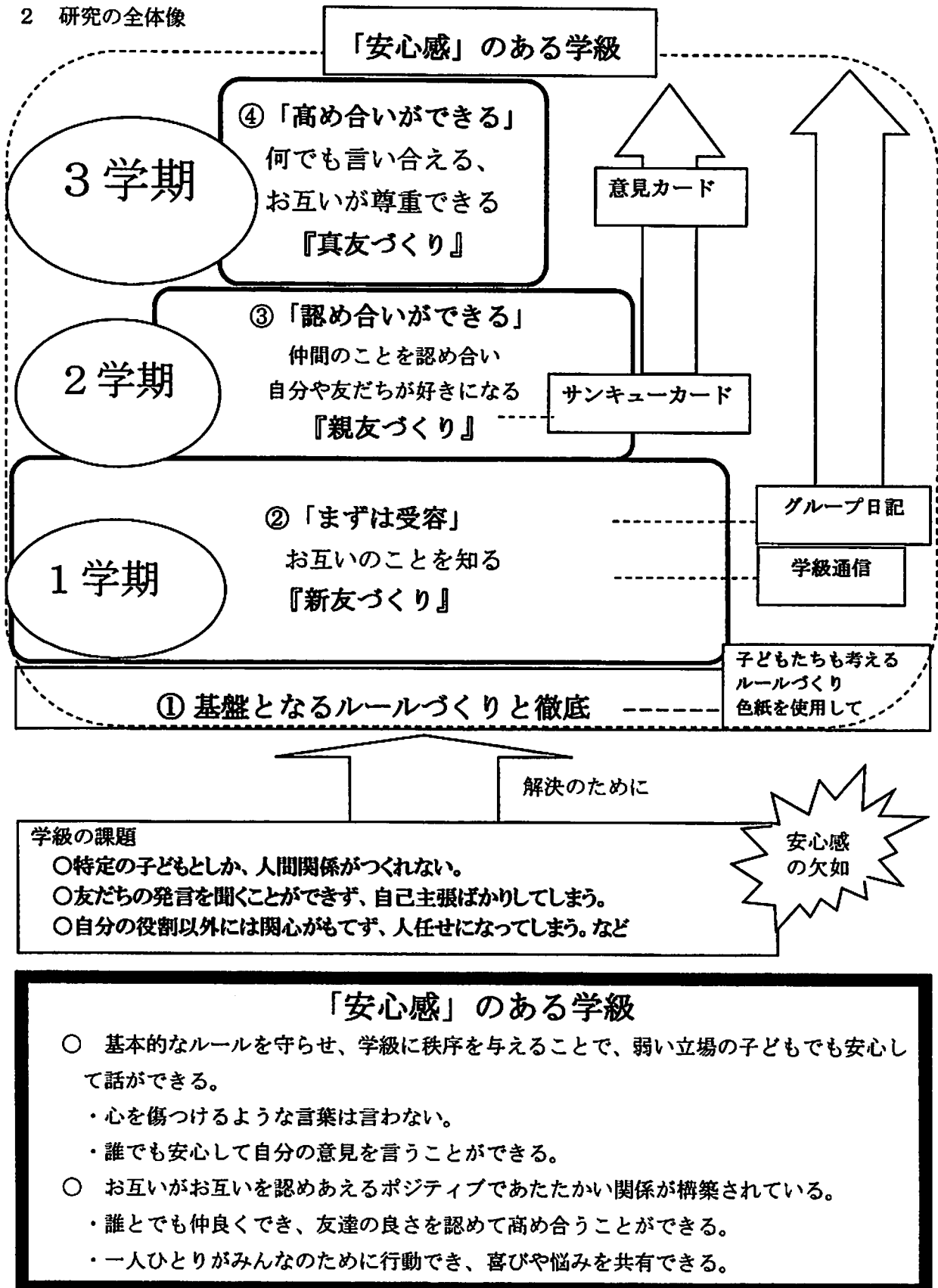
「安心感」があり、高め合える学級をめざすために

- ① 学級づくりの基盤となる「ルールの徹底」
- ② 「まずは、受容」～お互いのことをもっと知る 「新友づくり」
- ③ 「認め合い」～仲間のことを認め合う 「親友づくり」
- ④ 「高め合い」～何でも言い合えるお互いが尊重できる「真友づくり」

これら4つの手立てを1年間通じて指導を講じていけば、誰もが「安心感」をもって生活できるのではないかと考えた。また、①～④のプロセスに、「しんゆうづくり」という言葉をキー

ワードにして手立てを講じる。喜びや悩みを共有し、共に成長できる「真の友だちが集まる学級」を構築することができれば、安心感のある学級になり、お互いが高めあえる学級になると考え、本主題を設定した。

## 2 研究の全体像



### 3 研究内容

#### (1) 子どもどうしの考えをつなぐ

- ①「色紙」の活用
- ②「グループ日記」
- ③「サンキューカード」
- ④「意見カード」

#### (2) 学級全体の考えをつなぐ

- ①「学級通信」

### 4 研究の実践

## 基盤となるルールづくりと徹底 ～子どもどうしの思いを共有させてルールづくり～

#### 「色紙」の活用

子どもが安心して過ごすためには一定のルールが必要不可欠である。そのルールづくりには、教員が与えるものと子どもがつくり出すもの、大きく2つに分けることができる。前者は押しつけに感じるが、ある程度のルールを提示しなければ学級の秩序は保てなくなる。また後者は、子どもが作るルールを全て良いことにすると、子どもにとって都合のよいルールになってしまう。そこで、ルールづくりの際、テーマは教員が決め、ルールを守るための具体策は子どもに話し合わせ決定させるようにした。自分たちで考えることで、絶対にルールを守るという意識が高まると考えた。子どもたちには、みんなで思いを一つにするために色紙を書こうと呼びかけた。ルールを決める前に、テーマに沿って全員が色紙に考えを書いた。自由に自分の考えを書けることや発言をしなくても良いこともあり、おとなしい子も安心して自己表現

ができると考えた。そして、全員で考えを確認する。色紙は、友だちの思いを知ることができ、自分の意見と友だちの意見が似ていることに気づくことができた。「この考えは、自分ひとりではないんだ。」「友だちはこんな事を考えていたんだ。」とみんなで確認ができた。子どもを、「自分たちでルールを決めた。」という思いにさせることができた。

#### ・ルールづくりの流れ

例)「自分が言われて嫌なことは友だちに言わない」というルールを作るために

- I 嫌なことを言われたらどんな気持ちになるか?というテーマで色紙を書く。
- II 全員で考えを確認する。



(ねらい)

色紙を活用することで、友だちの思いを知ること・友だちと同じ悩みをもっていることを知り、ルールづくりに役立てる。

(使用方法)

学級のルールを決める前に、テーマに沿って全員が色紙に考えを書く。

Ⅲ 友だちにどう接するのが良いかを問う。

Ⅳ 子どもから「自分が言われて嫌なことはしない」ということが発言される。

Ⅴ ルールにする。

《実際に子どもたちの思いを共有させてから、掲げたルール》

- ・友だちが悲しむことをしない。(言葉づかい、行動)
- ・人の話は、最後まで聞く。
- ・自分のことが終わったら、友だちの手伝いをする。
- ・授業中は、集中してとりくむ。

結果的に、担任が守らせたいルールを子どもたちも納得して守ろうという雰囲気教室に広がった。子どもがトラブルを起こしたら、このルールを確認することができた。担任がただ思いを伝えただけでなく、子どもたちが納得してルールを掲げたことで1年間守ることができた。

## 1 学期 「まずは、受容」～お互いのことをもっと知ろう！！ ～新しい友だちづくり・・・「新友づくり」～

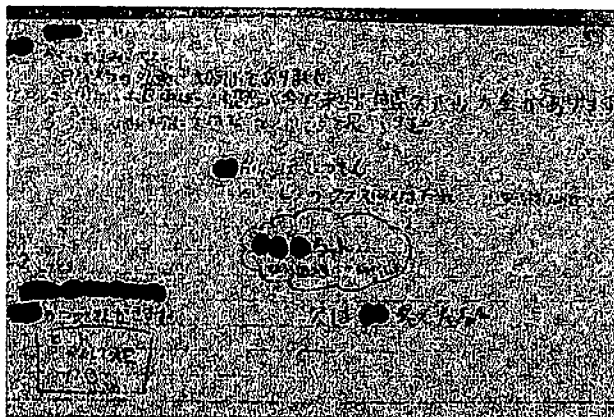
1 学期は、信頼関係を構築していくために、自分たちのことを良く知るという場面を多く設定した。

### (1) グループ日記！友だちのこと知っているかな？(資料①)

グループ日記によって、めざす子どもたちの姿は次のとおりである。

- ・生活の様子や自分の特徴などを伝えることができる。
- ・友だちの様子を知ることができる。
- ・友だちと仲間意識を形成することができる。
- ・どんなことを書こうか真剣に考えることができる。
- ・普段あまり話すことの無かった友だちどうしてもお互いのことを知ることができる。

友だちのことをもっと知ることによって新たな一面を発見できるのではという思いで、グループ日記を始めようと考えた。そこで、学級活動の時間に、友だちのことをどれだけ知っているか問いかけてみた。すると、笑顔で答えてくれた子が多くいた。しかし、男子に女子のことを聞いてみると、その子は「そんなのわかるわけない」と答え、周りからもその男子に賛同する意見が多く聞かれた。「もう4年間も一緒にいるのに、クラスの仲間のことを何も知らないのは何かさみしくないですか」と子どもたちに聞くと静まってしまったので、「お互いのことをもっと知れるグループ日記を



〈ねらい〉

学級の様々なグループで日記を交換することで、普段あまり話すことの無かった子どもどうしてもお互いのことを知る機会をつくる。

〈使用方法〉

- ・いくつかグループをつくり、毎日交換する。(1 学期は、出席番号順、2 学期以降は、順不同に複数のグループに所属する)
- ・グループ以外の子どももいつでも日記を閲覧できるようにする。

考えました。」と紹介した。子どもたちにルールを説明すると、「面白そう。早くやりたい。」と好意的な声があがった。1学期のグループ日記は、出席番号順に始めた。毎日書かなくて良いという負担の少なさと、「テーマは自由」ということで子どもたちも無理なく始められた。グループ日記は、教室の壁に掛けておくことで、いつでも全員が見られるようにした。子どもたちは「何が書かれているのだろう」とくり返し興味津々に読み返していたり、「〇〇くんってあのアニメ好きなんだ」と盛り上がったりしていた。次第に絵を書いたり、お家の人も登場したりと意欲的にとりくんだ。何より書く量は、1ページぎっしりかかっていた。日記を行い、友だちの新たな一面を多く知ることができたと考える。

### (2) 学級通信で担任から発信！(資料④)

学級通信によって、めざす子どもたちの姿は次のとおりである。

- ・友だちの良さや頑張り、学級の良さを知ることができる。
- ・子どもが学級の様子を振り返ることができる。
- ・担任の思いを知ることができる。
- ・家で家族と学級の様子を話し合うことができる。
- ・保護者が、自分の子どもの思いや子どもの友だちのことを知ることができる。

学級通信は、保護者向けの文言で週1回のペースで配付をした。内容は、学級の様子や担任の思い、そして一番大事にしたのは、子ども一人ひとりの考えや思いである。配付すると、子どもも興味津々に読み「自分の感想があった。」「〇〇のことが載っている」と大変喜んでいた。印象的なのは、友だちの文を真剣に読んでいる子どもが多かったことである。また、自分の考えを載せてほしいと言ってくる子どもも出てきた。

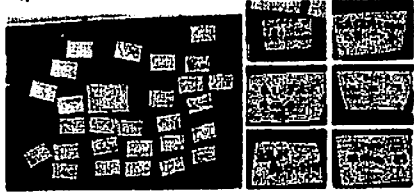
### (3) 1学期を振り返って

#### 〈効果と変容〉

グループ日記を通じて、日記だけのやり取りではなく、友だちどうし、男女関係なく集まって話しあう姿が見られた。その中で、「先生、Aさんって優しいことがわかって良かった。」「Bさんって、サッカー習っていたんだね。」と新たな一面を知ることができる子どもも多くいた。学級通信のコメントを読んで、笑顔を見せる子どもも多く、友だちの気持ちを知る機会が増えた。また、友だちの発言は最後まで聞くことや、自分がされて嫌なことは相手にもやらない、という決めたルールを守ろうと意識する子どもが多くみられた。そのような雰囲気は広がり、グループ日記や学級通信は、学級でおとなしい子どもも、思ったことを詳しく書けるようになっていた。

**LET'S CHALLENGE!!**

すばらしい学校って？



〇1日10人自らあいさつ!!

〇一人一校堂っています。

〈ねらい〉  
教員・家庭・子どもをつなぎ子どもたちを伸ばす環境をつくる。  
〈使用方法〉  
授業や生活の様子、子どもたちの様子などを書き、週1ペースを心がけ発行する。

## 〈課題〉

6月下旬に行く校外学習のメンバーを決める時に、「自分はこうしたい」という思いを口にできず、担任に助けを求める子どももいた。気持ちを書くことはできるが、みんなの前で発言ができなかったり、行動に移せなかったりする子どもが多かった。発言する子どもも、声が小さくなってしまったり、もじもじしてしまったりと、自信をもって発言することができなかった。学期末に行った学級レクも、目立つ子が企画・進行を行い、ただレクに参加するだけの子どもも多く、盛り上がりにも欠けていた。

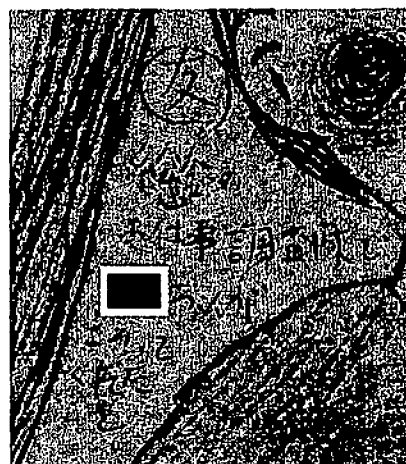
友だちの新しい一面を知ることができたが、課題が多く残る一学期となった。

## 2学期 「認め合いができる」認めてくれる喜びを！ ～親しい友だちへ！！「親友づくり」～

1学期の「受容する」から、2学期は「認め合う」場面を多く設定し、お互いがお互いを認め合い、ポジティブであたたかい関係を構築し、クラスのために行動できることは素晴らしいという気持ちをもたせたいと考えて臨んだ。

### (1) 認めあえるようなグループ日記に (資料②)

1学期から行っているグループ日記だが、友だちのことを知ってくると書く内容もだんだんとマンネリ化してきてしまった。しかも、毎回同じ人にまわすので、面白みが無く、2行で終わりになってしまう子どもも出てきてしまった。そこで、ノートを増やしグループをつくることにした。グループは子どもが決めると、仲のいい子だけのグループになると思い担任が振り分けた。また、お互いが認め合えるようにしたいと考え、「友」というスペースをつくり、友だちや学級の良いところを書くということにした。たった一つ加えただけで、子どもたちは日記を確認することが多くなった。友だちを認め合うきっかけをつくったことで、友だちの様子を観察する子が多くなり、困っている友だちを進んで助けようとする子どもが増えた。



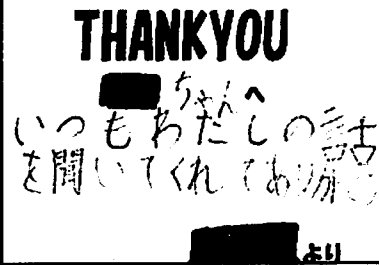
### (2) 学級通信～担任の思い、個人の頑張りを認める (資料⑤⑥)

2学期は、個人の頑張りを学級通信に載せるようにした。友だちや学級のために頑張っている子を紹介することで、学級通信を見た子どもたちからは、「〇〇が書かれている」と盛り上がり、「すごい！！」という声も挙がった。子どもたちの反応は良いが、学級通信を「果たして保護者の方は読んでいるのだろうか？」と不安に思っていた。しかし、10月中旬に保護者から、「先生の学級通信を読むのが楽しみです。子どもともいろいろ話せるし、お互いに意識してとりくんでみようかということもできます。」「自分の子ども以外の子も頑張っているんですね。自分の子に〇〇みたいにできると良いなと言いました。」など、多くの保護者から、学級通信で子どもとコミュニケーションをとっていると褒められた。また、担任の思いも意識して載せることにした。担任の思いを真剣に読んで考え、行動しようと頑張る子どもたちの姿も見られた。

### (3) サンキューカード ～感謝の気持ちを伝えあおう。～ (資料⑨)

サンキューカードにより、めざす子どもたちの姿は次のとおりである。

- ・褒めることが苦手な人、感謝を伝えられない人でも簡単に気持ちを伝えることができる。
- ・「良いこと」の価値観を全員が共通理解することができる。
- ・ありがとうを送る習慣を通じて、お互いが認め合うことで、生活しやすい学級をつくる。
- ・進んで友だちや、学級のために行動する人が増える。
- ・だれかが見てくれているという「安心感」を培うことができる。
- ・だれでも主役になれる。



〈ねらい〉

感謝の気持ちを養ったり、全員が友だちの頑張りを共通理解できたりする環境をつくる。

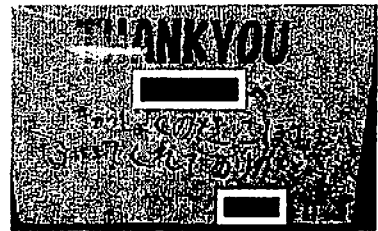
〈使用方法〉

名刺サイズの紙に、助けてもらった時、できるようになった時、楽しませてもらった時、前向きになれた時、などに感謝の気持ちを書く。

この学級では、「ありがとう」という言葉をあまり聞いたことがなかった。友だちだからやってくれて当たり前という子が多いのか、友だちにありがとうという機会を逃している子が多くいた。そこで、始めたのがサンキューカードである。サンキューカードでありがとうを仕組み化し、感謝の気持ちを気軽に表せるようにした。また、全員が見られるように、一人ひとりのケースをつくり、掲示できるようにした。子どもたちは、始めた当初は、書きやすい人にだけ渡していた。

しかし、学級一のお調子者であるAが、給食の時間におぼんをひっくり返してしまった時である。普段控え目な3人の友だちがずっと立ち上がり、Aの手伝いを始めたのである。その後、Aはその場は恥ずかしそうに『はいはいありがとうーございませう。』と少しふざけたようにやり過ごしたのだが、休み時間に3人あてにサンキューカードを書いていた。

これを境に周りの子にも変化が見られた。サンキューカードが仲のいいメンバーだけでなく男女関係なく書かれるようになっていった。また、助けてもらったことだけでなく、「一緒にいてくれてありがとう」や「笑わせてくれてありがとう」と言うように、その人の存在に感謝をし始めていった。



このサンキューカードのとりくみを行ったことにより、子どもたちの中で、自分も学級のために進んで行動しようとする雰囲気が強くなっていった。そして、友だちの良いところを探す人が増えてきた。もらった側も、大切に保管し、見ていてくれてうれしいと喜んでいた。また、自分が何かをすれば、友だちが見てくれている、認めてくれるという雰囲気ができた。

### (4) 2学期を振り返って

〈効果と変容〉

様々なとりくみの中で、お互いを認め合うことを取り入れた。教室が汚れたらすぐに掃いてくれたり、友だちが困っていたら声をかけて一緒に考えてあげたりと、進んで友だちや学級のために行動する子どもが多くなった。やってくれたことに感謝の気持ちを表す子も多く



「サンキューカード」が1か月で30枚たまると子どもも出てきた。学級としてまとまりも見られ、「お互いが協力する場面」が増えていった。10月の宿泊学習では、お互いがよく話しあい、協力して行動していた。また、キャンプファイヤー中の学年の出し物では、「劇」を行うことになり、全員が団結して準備し、全員が人前で堂々と演技し、成功をおさめた。12月に行われた学級対抗のレク大会では、男女関係なく全力で応援し、優勝した際には、みんな喜びを分かち合うことができた。認め合うことでポジティブにあたたかい関係ができ上がってきたように感じた。子どもの仲が深まると同時に、人前で堂々と発表する子どもも増えた。

また、学級通信を通じて、保護者と学校で子どもを見るという体制ができた。保護者の中には、自分の子だけでなく、周りの子どものことに目を向け、子どもと一緒に友だちを認める姿が見られた。また9月に転入してきた子も、「みんなが気にしてくれるからこの学校に来て良かった」と毎日元気に過ごすことができた。サンキューカードにも、「遊びに誘ってくれてありがとう」「いつも声を掛けてくれてありがとう」と、積極的に感謝の気持ちを伝えていた。

〈課題〉

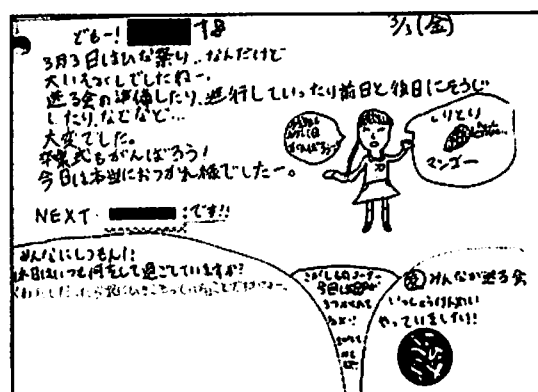
認め合いができるようになったが、友だちに対して「もっとこうしたほうが良いよ。」という高め合う発言など、お互いを高め合う様子は中々見られなかった。

### 3 学期 「高め合いができる」お互いが意見を言える。 ～真の友だちへ！！真友づくり～

子どもたちの中で、認め合い協力することができていたので、3学期の目標は「高め合い」とした。係や委員会に対して、意見を言う場をつくり、3学期からお互いが高め合いながら学級を良くしていくように仕向けた。

#### (1) グループ日記 楽しみな習慣に！（資料③）

グループ日記も、様々なグループをつくり3日に1回ペースで自分の番が来るようになった。子どもには、「友」の欄に書かれた内容について感心できたらシールを貼ることを加えた。子どもたちは、とても楽しみに自分の番を待っていた。1学期と比べ、丁寧に大切に書く子が増えた。



#### (2) 学級通信～変化がぞくぞくと！～（資料⑦⑧）

3学期に入り、6年生からバトンを引きつぎ、6年生を送る会や卒業式と全校のリーダーとして活動する場面が増えた。頑張りを取りあげるとともに、6年生を見すえてもっとうしてほしいとより高い課題を投げかけるようになった。子どもたちも前向きにとらえ、積極的に頑張ることができた。個人の頑張りを家庭・子どもに伝えることで学級全体に高め合える雰囲気を作っていた。

### (3) サンキューカード!

3学期に入ると、ありがとうと積極的に書いて渡したいという声が多く挙がり、100枚が1日で無くなってしまいうこともあった。また、サンキューカードが無くても「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えられようになった。

### (4) 意見カード (資料⑩)

意見カードにより、めざす子どもたちの姿は次のとおりである。

- ・学級の係や委員会のことで思ったことを言える。
- ・お互いが学級のために考え、意見を言うことで、高め合いができる。

関係ができあがってきたので、新たなとりくみを行った。係や委員会活動に対して、サンキューカードや意見カードを渡す機会を設けた。意見カードとは、「もっとこうしたほうが良い。自分だったらこうする。」ということを意見するカードである。係が決められた内容をくり返すだけになっていないか、もっと学級のためにできないかと周りから意見を言い合うようになった。関係ができているからこそ、良いことだけではなく、相手に安心して意見を言える。受け取った側も、怒ったり、無視したりせず、意見を出してくれた子と話し合う場面が見られた。

11月11日  
帰りにつくえをそろえると  
よびかいて、目標の紙に  
かいてあったので。  
もくたくさんよびかいた  
ほうがいいと思ふ。  
協力するよ。 5月

〈ねらい〉  
学級のために考え、友だちに改善点やアドバイスを書く。  
〈使用方法〉  
名刺サイズの紙に、意見を書く。

### (5) 3学期を振り返って

#### 〈効果と変容〉

係活動や委員会活動では、友だちのアドバイスを素直に受け入れてより良いものをつくらうとする子どもの姿が見られた。それによって、係活動で様々なとりくみを考え、積極的に行動できるようになってきた。また、普段の生活でも友だちの中で「今の発言は、せっかく頑張った〇〇さんにとっては、嫌じゃない。」「もっとこうしたほうが良いよ。〇〇ならできるよ。私も手伝うから一緒にやってみようよ?」といった友だちのことを考えた発言が意見カードを使わなくてもできるようになってきた。

学級では、おとなしい男子が「バレンタインデーは男の日」と名付けてレクを企画して、男子全員で進行したり、4年生まではおとなしいと引き継ぎを受けていた子どもが委員長に立候補したりするなど、積極的に活動できる子どもが多くなった。学級で生活アンケートを取ると、1学期に比べて学校や学級が「とても楽しい」と答えた子は28人中27人であり、1人の変わらない子も理由に「以前から楽しいから」と書いていた。転入生も、3学期になると学級委員長を務めるまでに積極的になった。友だちにも積極的に声を掛けることができるようになった。周りからも信頼を集め、実行力のあるリーダーとして学級で輝けるまでになった。

### (6) 1年間を通して大きな変容が見られた子どもBについて (資料⑪⑫)

子どもBは、学力が高く物知りで、話も面白いのだが、仲のいい友だちがいなく、声をかけても避けられているような様子だった。本人もコミュニケーションをとるのが苦手なため、ひとりぼっちになってしまう時間も多かった。また、運動が苦手で、体育の時間に

なると泣き出してしまい見学をするという気弱な女の子であった。4月当初のBの日記は、一生懸命書いているが、どこか寂しい内容である。

Bが大きく変わったのは2学期である。きっかけは、サンキューカードで友だちにたくさん感謝の気持ちを伝えたことである。そんなBに友だちは声をかけていった。すると、体育の跳び箱の授業でペア学習を行った時のことである。今まで、体育のこととなるとBは一人隅っこで泣いてしまったのだが、最後まで、頑張ることができたのである。単元終了後に聞いてみると、「学級に心配してくれる人がいっぱいいるし、リズムは取れているから頑張ろうって言われた。」と話してくれた。周りの子どもも、良いところは認めるということができていた。ペアを中心にBをサポートして、Bは台上前転ができるようになった。学習カードに「できているって実感してる。みんなサンキュー」と記した。元々、話が面白く、日記を一生懸命書いていたBは、一気に受け入れられた。それからのBは、今まで以上にサンキューカードを積極的に書いたり、グループ日記の内容も見違えるほどになったりと、大変明るくなった。また、3学期に行ったアンケートの結果を見ると学級に居場所を見つけ、友だちができた大変喜んでる様子が分かった。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

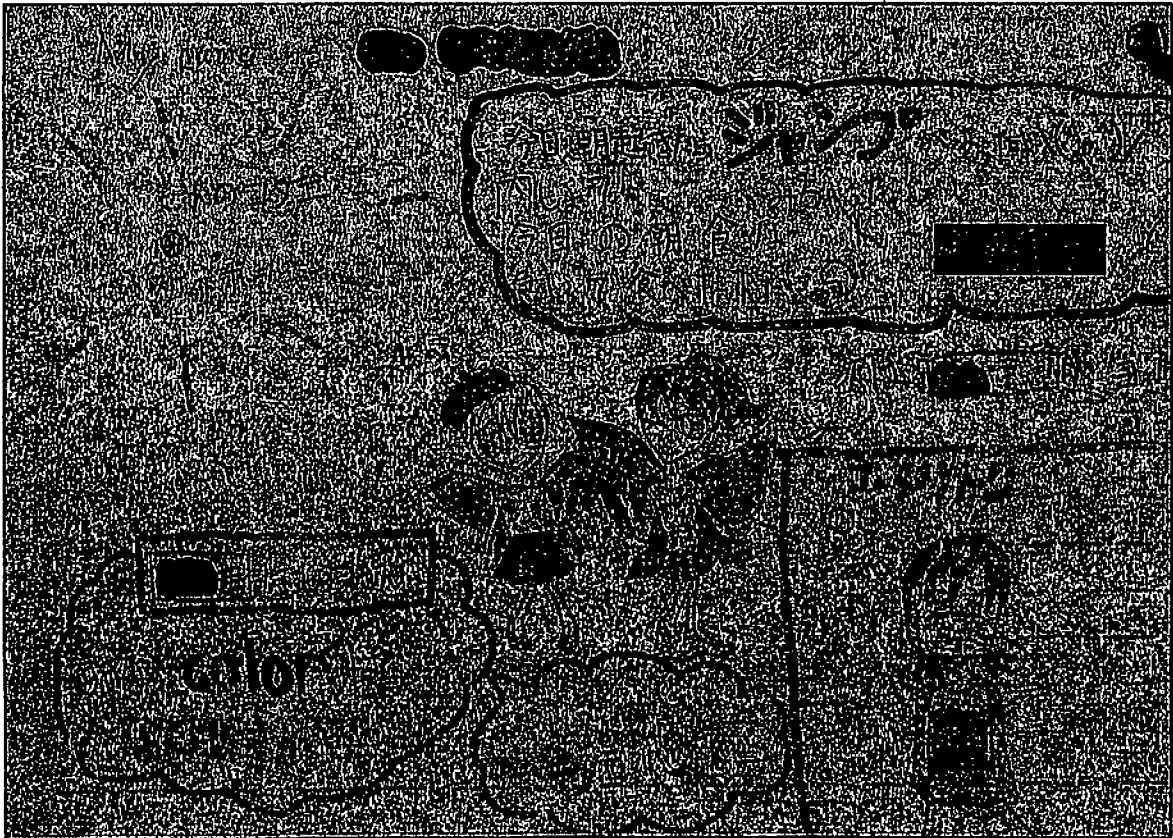
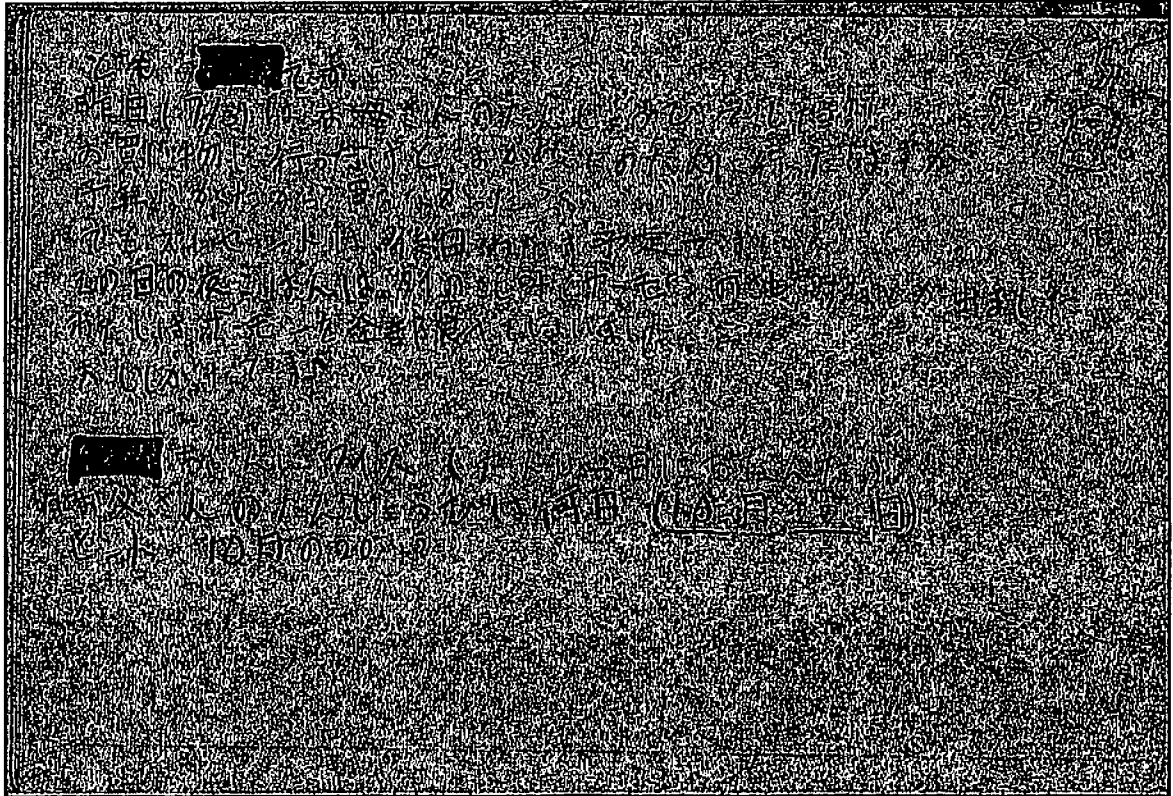
- 安心感のある学級をつくるために、段階を踏んで「しんゆうづくり」を行ったことにより、子どもたちの中には、高め合いができる姿が見られた。
- グループ日記やサンキューカードを通じて、子どもたちの交友関係が広がったことで、みんなのために行動できる子が増えてきた。また、おとなしい子も積極的に活動する姿が見られた。
- サンキューカードや意見カードを使ったことで、安心して自分の意見が言えるようになったり、意見を自分の行動に取り入れたりする姿が見られた。

### (2) 課題

- まだまだ高め合いまでにはいかない子もいる。学級をもちあがったので、高め合いができるように、引き続き子どもと関わっていきたい。
- 何でも言えるからこそ、言われたことに対して悩んでしまう子も見られた。「安心感」のある雰囲気はあるのだが、それでも友だちに対して意見を言われると、落ち込んでしまう子も見られた。また、なかなか行動できていない係に対して、厳しく意見を言う子も見られた。

資料編

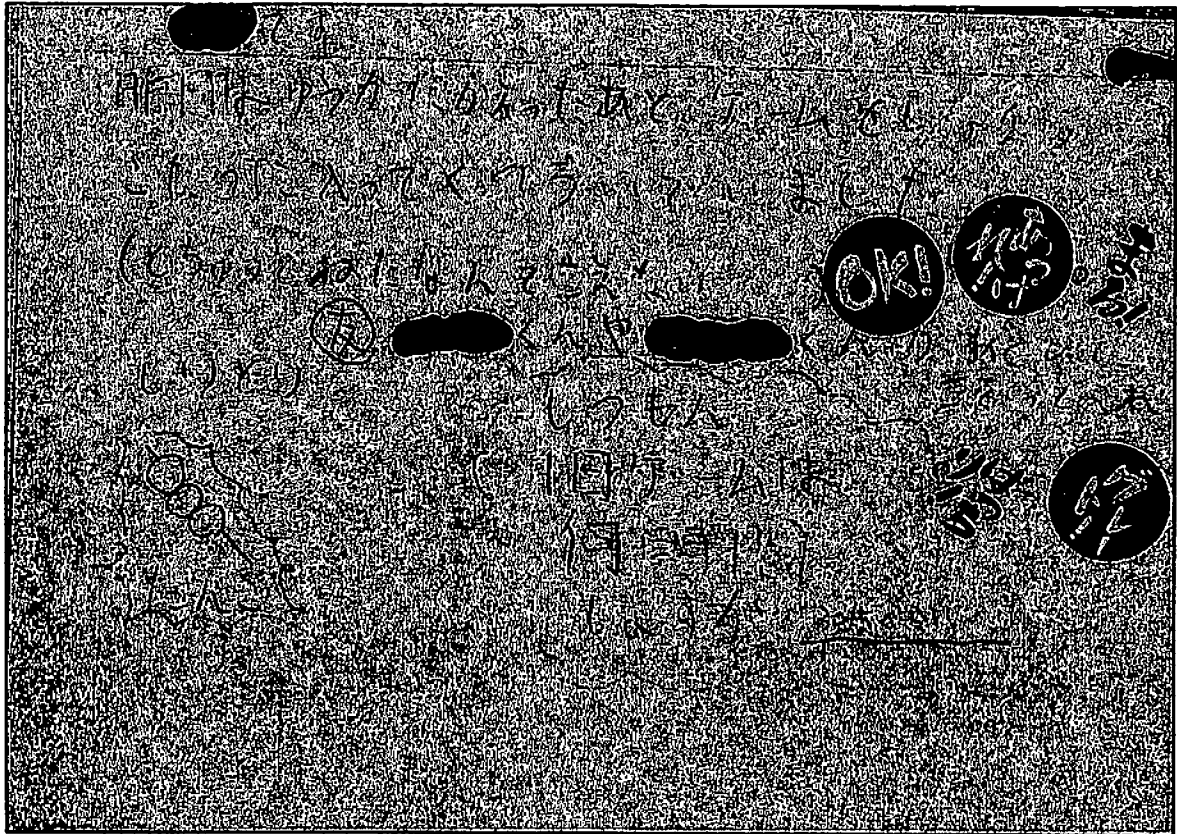
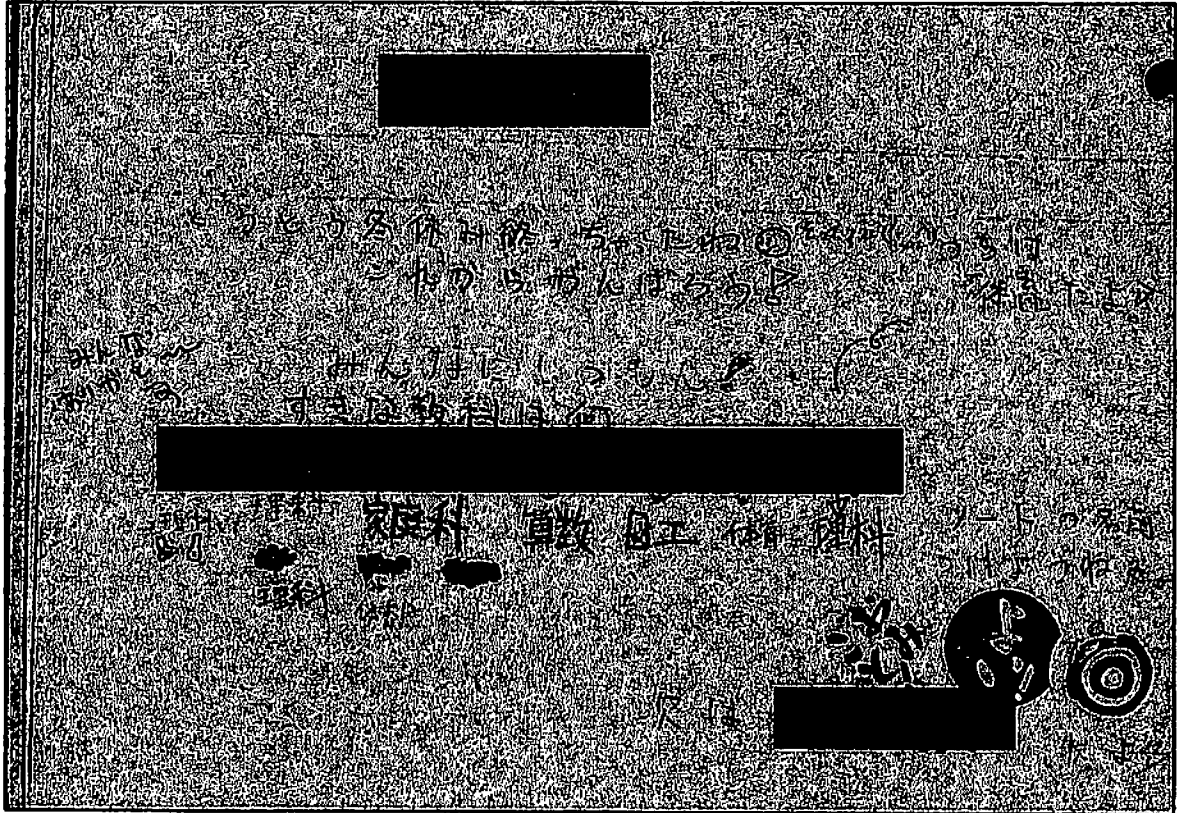
資料① 1学期のグループ日記







資料③ 3学期のグループ日記



# LET'S CHALLENGE!!

2016年度  
第5学年2組  
学級通信2号  
4月19日

## それぞれの思いをもって!!

先週は、学習のきまりについて子どもたちと確認をしました。特に、授業へ対する意欲が高いため話の途中で質問したり、答えたりする子が多く見られたので、「最後まで聞いてから質問する。」ということを確認しました。授業規律を大切にしながら子どもたちが熱中する授業が出来るようにしたいと考えています。

さて、学級通信のタイトル「LET'S CHALLENGE」は、様々なことに進んで「挑戦」し、失敗と成功から多くのことを学び成長してもらいたいという思いから名付けたものです。高学年になり、学校の中心メンバーとして、「自分はこうしたい!」「みんなのためにこうしたらよいのではないか。」とそれぞれの思いを持ち、学級や学年、学校を今よりもっと良いものにしてもらえたらと考えております。

.....

どんなクラスにしていきたいか、一人ひとりに考えてもらいました。1人1人のやる気と思いをご紹介します。

- けんかのないクラス [ ]
- 元気で明るいクラス [ ]
- とにかく明るいクラス、ゆうしゅうなクラス [ ]
- ニコニコ明るいクラス [ ]
- いじめのない明るい元気なクラス [ ]
- 明るくて優しいクラス [ ]
- 楽しく男女関係なく仲の良いクラス [ ]
- ON、OFF がしっかり区別できるクラス [ ]
- 楽しいクラス、いじめのないクラス [ ]
- いじめのないクラス [ ]
- 笑顔で楽しく明るいクラス、仲間はずれのないクラス [ ]
- 楽しく思いやりのあるクラス、あきらめないクラス [ ]
- いじめのない笑顔のクラス、元気で楽しくスポーツ万能のクラス [ ]
- 楽しいクラス [ ]
- 笑顔いっぱい優しいクラス、下の学年のお手本になれるクラス [ ]
- いじめのない明るいクラス、けんかのない仲の良いクラス [ ]
- いじめゼロ、みんな笑顔があるクラス [ ]
- 元気の良いクラス、けんかのないクラス [ ]
- とにかく明るいクラス、元気で仲良しのクラス [ ]
- いじめがなくて仲が良い元気なクラス [ ]
- みんな仲の良いクラス [ ]
- いじめゼロ、みんな仲良く明るいクラス [ ]
- いじめのない優しいクラス [ ]
- 仲良く元気にいじめがないクラス [ ]
- 明るく楽しいクラス、いじめがないクラス [ ]
- いじめとけんかがないクラス [ ]
- 楽しく仲の良いクラス [ ]

それぞれの思いを持って5-2を最高のクラスにしてもらえたらと思っています。



# LET'S CHALLENGE!!

2016年度  
第5学年2組  
学級通信13号  
10月6日

## 体育で「できた」「楽しい」を実感

体育で、「跳び箱～目指せ回転マスター（台上前転）」の授業を行いました。授業が始まると、台上前転ができるようにとても真剣にたくましく活動ができていました。この学習を通して、台上前転ができなかった子ができるようになったり、もっときれいに回れるようになったりと技能の向上が見られました。またペアの友だちと教え合い、励め合うことができていました。「もっとだんご虫みたいに腰を丸めて」「ひざをもっとのばして」「すごくよくできてた！グッド！！」など、具体的なアドバイスもたくさん聞かれました。授業を通して、子どもたちの「できた」という充実の笑顔が多く見られました。



### 子どもたちの感想

- ・友だちが着地をできた時、とてもうれしかったです。・友だちがあと少しでできると言ってくれた。
- ・はじめて台上前転ができるようになって良かったです。・ひざを伸ばすのを意識したらできるようになりました。
- ・勢いよく手を「パン」と付けることが大切。・できているって実感できています。
- ・はじめて台上前転の4段ができた。・友だちが上手にできるようになった。
- ・前転ができない子ができるようになった。・地面を蹴るといいよと言われた。
- ・友だちに後頭部をつけるといいと言われた。ゴムに足が触れた。こわかったけど、アドバイスをもらったらできた。
- ・2段の時は助走を短くする。・友だちもできるようになって良かったです。

# LET'S CHALLENGE!!

2016年度  
第5学年2組  
学級通信17号  
11月11日

## 「友だち」

今回は友だちについて書きたいと思います。クラスで取り組んでいることや、生活の中で子どもたちに伝えたことを紹介します。

### ① 「ありがとう」をTHANKYOUカードに込めて

子どもたちにとって、今、このクラスで、友だちと仲良く生活できていることは奇跡的なことです。日本に生まれたこと、千葉県に住んでいること、同じ学年になったこと、このようにすべてのタイミングが合ったから、今このクラスで楽しく生活できているのです。少しでもタイミングが違えば、出会うことも、話すこともしない他人だったかもしれません。そんな友だちが集まったクラスなので、支え合っていかなければ生活することは不可能です。子どもたちは、友だちに今日一日で何回の「ありがとう」が言えたでしょうか？友だちだからやってもらったり、助けてもらえたりするのがあたり前ではなく、感謝の気持ちを持ち、「ありがとう」を素直に言うことができる人になってほしいと私は考えています。そこで2学期から、ありがとうをしっかりと伝えるために「THANKYOU カード」にとりこんでいます。たくさんのTHANKYOU（ありがとう）を仲のいい人だけでなく、全ての仲間にも伝えられる人になってほしいと思います。

### ② 注意できる人になろう！！

クラスでこんな質問をしました。

みなさんにとって友だちとはどんな存在ですか？するとこんな答えが返ってきました。

- ・一緒に遊んでくれる。
- ・相談にのってくれる。一緒に考えてくれる。
- ・辛い時に励ましてくれる。そばにいてくれる。
- ・自信がないときにそっと背中を押してくれる。

みんなにとって友だちは一番大切なものなのだと感じました。

そして、私からクラスにこんなポイントを話しました。

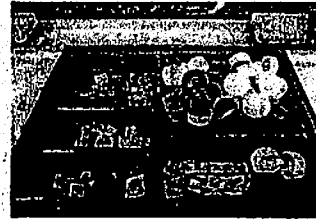
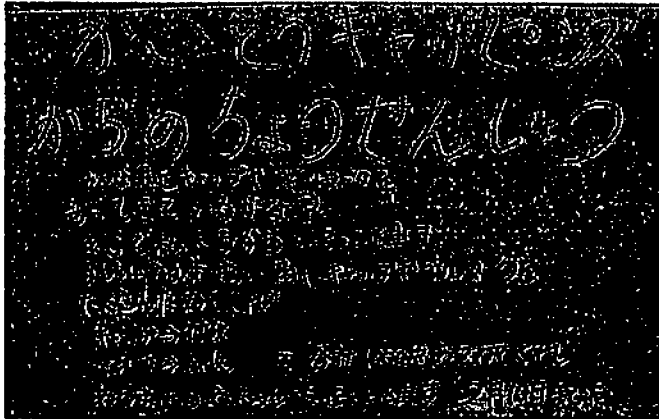
「友だちを注意できますか？」友だちがよくないことをしている時、本当に大切な友だちだったら、「間違った方向に行ってほしくない。」と思うはず。『間違っているよ』と、言えますか？それとも見て見ぬ振りをしてしまいますか？残りの小学校生活、そして人生、本当に大切な仲間を作ってください。『注意してくれる仲間を大切にすること。』『大切な仲間を注意できる人に。』

以上の2つを心がけ友だちに「感謝」の気持ちを伝えられる、「いけないこと」を注意することができる人になってほしいと思っています。そして、2組が6年生になっても、卒業して中学生になっても、大人になって「2組の友だちは信頼できる」「2組の仲間と相談しよう」と言える仲間になってほしいです。

# LET'S CHALLENGE!!

2016年度  
第5学年2組  
学級通信21号  
1月20日

## 「子どもたちの面白い発想」

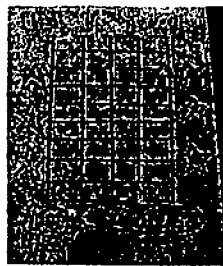


↑始まって2日間でたくさんのベルマークやキャップが集まりました。この挑戦を楽しんでいる人たちもすばらしいですね。ちなみに誰が発案したかは秘密だそうです。

火曜日の朝に子どもたちが、黒板の前に集まっていました。クラスの中でキャップやベルマークを集めようと「かいつキャビンズ」と名乗って呼びかけてくれた人がいました。私は、「みんなで同じ目標を持てば、クラスの仲が深まる」と感じました。私では考え付かない面白い発想でみんなが楽しく活動できるなと思っています。このために、たくさん物を買うのではなく、自分が持っていたり、家にあつたりするものを探して無理なく集め目標を達成してくれればと思います。



みんなが生き物に興味を持ち大切に育てていこうと写真を撮っていました。この後、紹介カードを作るそうです。



みんなに楽しんでほしいと1日1クイズを考えてくれています。上のシートに5個スタンプをもらおうと良いことがあるそうです。



毎週金曜日にみんなで遊ぶ内容をルーレットで決めようとして作りました。

# LET'S CHALLENGE!!

2016年度  
第5学年2組  
学級通信27号  
3月24日

## ありがとう

今年度の4月、始業式。みんな不安な表情で新クラスの発表を見つめていました。子どもたちも緊張感たっぷりでしたが、私もとっても不安でした。どんなクラスになるのだろうか？うまくいくのか？最初はどうな話をしようか？いろいろ考えすぎていたかもしれません。ふたを開けてみれば5年2組はとにかく元気。毎日笑顔の絶えないクラスでした。その明るさ、元気は最後までとだえることがありませんでした。学級目標の『SMILE』も5年2組にピッタリでした。

5年2組の教室には、とても温かい雰囲気があります。すべてを包み込んでくれるような、いつでもどんな時でもこの教室にいる人を大切にできるような、そんな雰囲気が大好きでした。このような温かい雰囲気、優しさのあるクラスを作り上げたのは、まぎれもなく子どもたちです。転入してきた、■■■さん、■■■さんを含めたすべてのメンバーでこの温かい雰囲気をつくったわけです。一人でも足りなかったらこの雰囲気は作れなかったはず。全員の力で作った結晶です。この雰囲気の中に私も入ることができてとても幸せでした。

1年間を振り返ると、9月はたくさんの先生の前で跳び箱運動を行いました。一生懸命教え合い、できた！！という自信と喜びを味わうことができました。次は、初めての宿泊校外学習。協力することの大切さを学びました。クラスの劇「アリス」も最高に笑えました。そして6年生を送る会。「6年生のために」を合言葉に準備運動をした一生懸命な姿は、たくさんの人に感動を与えました。さらに運動会、縄跳び集会、音楽集会、たくさんの行事を通して皆さんはどんどん成長していきました。この一年で大きく成長した部分をいくつか挙げてみます。

- ・正しいことを行う心の強さがつきました。
- ・どんなことも本気になれるメンバーが増えました。
- ・誰に対しても優しくできるメンバーが増えました。

この3つが大きな変化でしょうか。4月の時とは見違えるほど大きくなってきたように感じます。そんな姿を見ているととっても気持ちがよいです。そして『優しさ』です。人に対する気持ちは、思っているだけでは見えません。行動することで初めて見えるのです。2組で生活していると優しさのある行動をたくさん見ることができました。勉強を教えてあげる姿。それに対して素直に『ありがとう』と伝えること。給食配膳の手伝いを毎日してくれる。重いものを持ってあげる。男女それぞれに優しくしてあげる。怪我をしたメンバーを助けてあげる。落ち込んだ仲間に寄り添ってあげる。こぼしたら一緒にふいてくれる。友たちを前向きにしようと声をかけてくれる。家族に感謝できる。など、とにかくたくさんの場面で子どもたちの優しさに触れることができました。優しさや成長した姿を見る時、とっても嬉しく感じました。

さあ、いよいよ6年生です。どうしても子どもたちに期待してしまいます。活躍が楽しみです。

### 改めて保護者の皆様へ

1年間ありがとうございました。ご期待に添えず、ご迷惑をかけたこともたくさんあったと思います。保護者の皆様の支えのおかげで1年間、子どもたちと楽しく生活することができました。

大好き!!  
 (はなれたいけどいいや?)  
 [Redacted] ^  
 [Redacted] よい!

THANKYOU

[Redacted] さん ^  
 さんすうを教えてくれて  
 THANKYOU

[Redacted] よい

THANKYOU

[Redacted] ^  
 絵を借してくれて  
 THANKYOU

[Redacted] よい

THANKYOU

[Redacted] ちゃん ^  
 いつもわたしの話を聞いてくれてありがとう

[Redacted] よい

THANKYOU

[Redacted] くん ^  
 わたしにクラブで何  
 もやらないよ! 思っ  
 てくれてありがとう

[Redacted] よい

THANKYOU

[Redacted] ^  
 いまもの係のしごとを  
 手伝ってくれて  
 THANKYOU


[Redacted] よい

資料⑩ 意見カード

宇級音は、いさぎしそら  
は、で、伴音係で、宿題、十、一、七を  
やらせて、ただ、いてもいいで  
しょうか？  
by [redacted] Fが、F、S  
通ず、か、た、い


お世話係  
お母さん、お母さん、お母さん  
お母さん、お母さん、お母さん  
[redacted]

お母さん  
音楽係が、大きな声で  
歌、た、有、か、い、い、思、う、よ、？  
[redacted]

四月二十三日 [redacted] ナノの☆  
ごはんが終わり、たら Wii ゲーム!!  
楽しかった ナノの☆  
えしたら三階でまもだめし(?) ナノの☆  
あんまりどどらなかな (笑)  
[redacted] が意外な所にかくれていた ナノの☆  
妹はと中でやめて、私はと中参加 ナノの☆  
ま、最初からこわがらせおいたナノ (笑)  
おどろかせ絶をきくにおどろかせようとしたナノの☆  
[redacted] の答え  
出来たらにおかし作りで!  
[redacted] へのクイズ  
私が、たWiiゲームはなんだとする?  
  
さう印(?)マ

いっほー!! 今日のおたんこぼし [redacted] です!  
国語で3位のシール有(笑)  
今日、チャレンジタッチの了、アテンション(おの)さ (w)!!  
かけつけ方だけは  
だれにも負けん!!

しつもん  
もしもの時の  
170-6- [redacted]  
たらとら  
A. [redacted]  
B. [redacted]



おどろ  
おどろ  
おどろ  
おどろ

資料⑫ 児童Bの変容 アンケート

1. サンキューカードについて (お礼のいいところを知れたなど)

友達の良い所がわかった

2. グループ日記について

友達の日常が分かった

3. 5-2組のともだちについてどう思いますか?

仲良し!

4. 2組の良いところをあげてください

みんな平等=仲良し

5. 4月と比べて2組は楽しいですか

とても楽しい

楽しい

変わらない

あまり楽しくない

楽しくない

友達ができた~!





資料⑭ 学年末に実施したアンケート2

1 サンキューカードについて (友達の良いところを知れたなど)

痕 友達から「ありがとう」といわれる機会や、  
「ありがとう」という機械が増えたこと。  
痕 書く人もいるけれど書かない人がいること

2 グループ日記について

痕 いくつかのグループで、仲も深めたり、  
好きな食べ物や色を知る事ができたこと。  
痕 書かない人がいて日記がまわってこない  
ことがあること

3 5-2組のともだちについてどう思いますか?

とてもいいと思います。  
みんなやさしくてだれでもいっしょに  
話してくれます。

4 2組の良いところをあげてください

スポーツ、そして勉強すべてが完ぺき。  
テニサー、しかも明るくて仲が良し、ちよー  
うごいマスだとおもいます。

5 4月と比べて2組は楽しいですか

とても楽しい 楽しい 変わらない あまり楽しくない 楽しくない

だれとでも話せるようになって、とても  
たのしくなった。いろいろな取り組みで、  
2組の仲が深まった。

1. 先生が授業で話されたこと(印象に残ったこと)

・おもしろいこと、知らないことが  
できる  
自分もいいこと、感心できる

2. 先生が授業で話されたこと

・あなたが「仲良しな仲間」だと思える。  
最近の出来事などをしっかりと読むことが  
できる。

3. 学習の楽しさについてどう思いますか?

・とてもおもしろい、よくわかる。  
仲間が仲良しでいてくれる。

4. 授業の楽しさを教えてください。

・何事にも本気で取り組むこと  
真剣なことは真剣に楽しむ時は楽しむこと  
ができる。

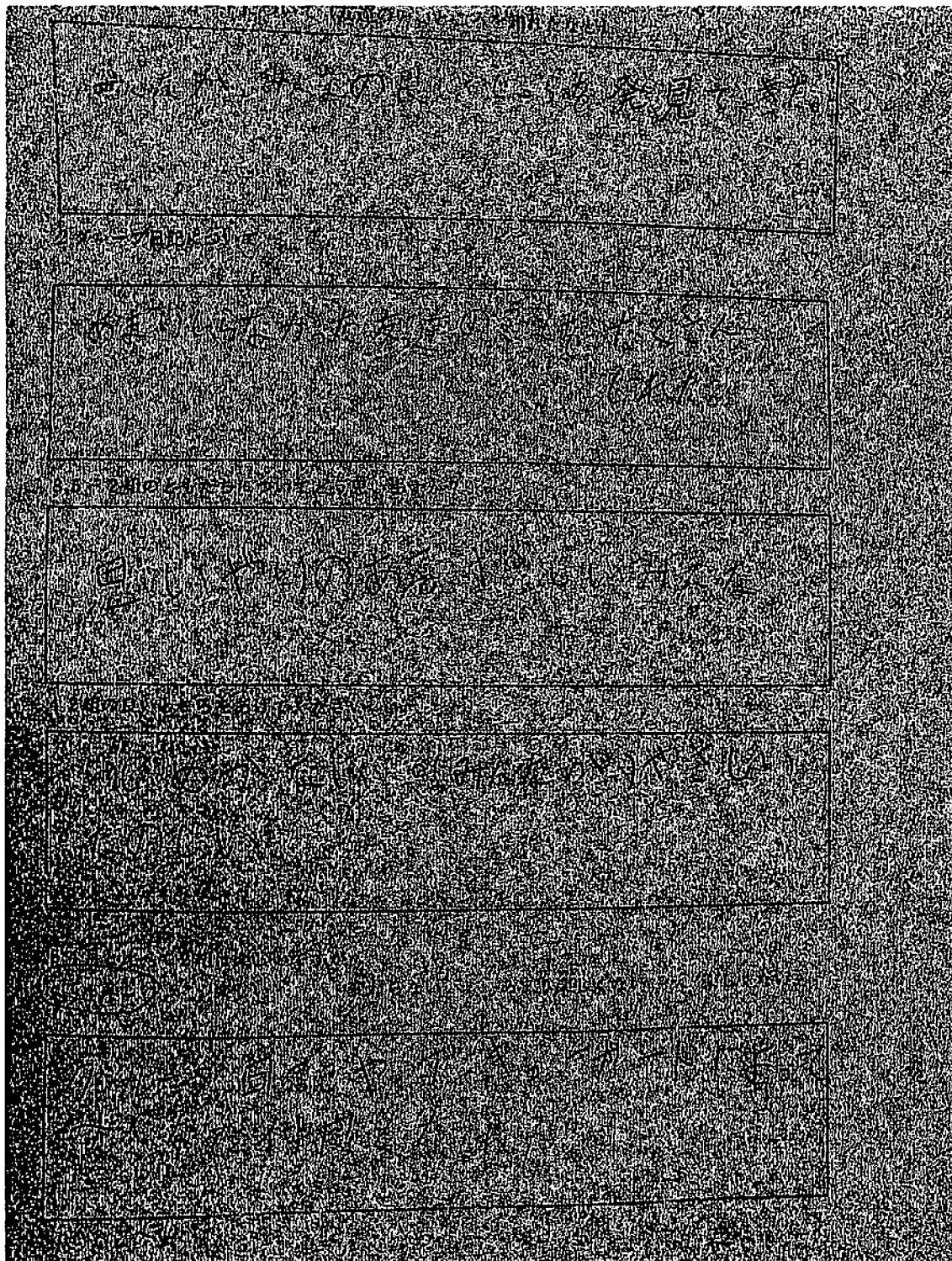
5. 先生が授業で話されたこと

・先生が話されたこと、おもしろい、よくわかる、楽しかった

・先生が話されたこと、おもしろい、よくわかる、楽しかった  
先生が話されたこと、おもしろい、よくわかる、楽しかった  
先生が話されたこと、おもしろい、よくわかる、楽しかった



資料⑰ 学年末に実施したアンケート 5





資料⑱ 学年末に実施したアンケート6

自分以外の同級生(男子)が自分より勉強が得意
自分
自分のまじりが笑って、自分が良
い。自分のまじりでも笑って
みんな明るく、笑って、笑って、笑って、笑って
明るく、笑って、笑って、笑って、笑って
笑って、笑って、笑って、笑って、笑って
笑って、笑って、笑って、笑って、笑って
笑って、笑って、笑って、笑って、笑って

## 引用・参考文献

文部科学省（2010）『生徒指導提要』文部科学省

諸富祥彦（2011）『チャートでわかるカウンセリング・テクニックで高める「教師力」

第1巻 学級づくりと授業に生かすカウンセリング』ぎょうせい

新富康央（2014）『～どの子ども安心できる学級—「支持的風土」づくりのポイント』『児童心理4月号』金子書房